

課題

(1) オリジナルロゴ作成

授業で学んだテーマ（比、数理曲線、対称性、その他）に関連した自身の工夫を入れた オリジナルのロゴを作成して、コンセプト、数理的特徴、アピール点等について解説・考察を行う。

解答

私は、所属している部活(フォークソング部)のロゴを作成したいと考え、比、数理曲線、対称性に関連したオリジナルロゴを作成した。
(Adobe illustrator で作成)

作成したロゴを図1に示す

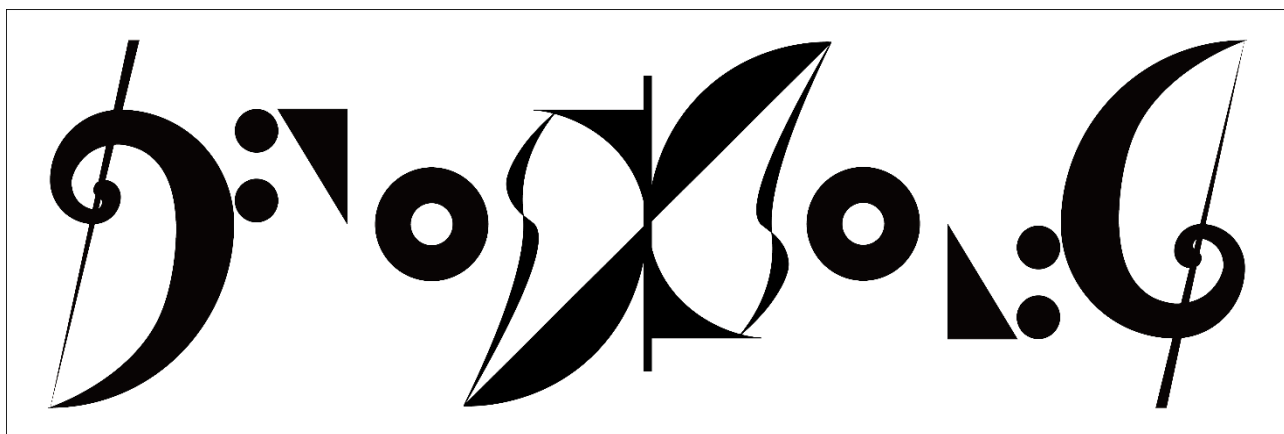


図1 作成したオリジナルのロゴ(フォークソング部)

コンセプト

コンセプトは「遊び心とスタイリッシュさ」
音楽、バンドの楽しさとカッコよさを表現したいと考え、このコンセプトを設定した

数理的側面

このロゴを作るにあたり、意図的に取り入れた数理的特徴は3つある。

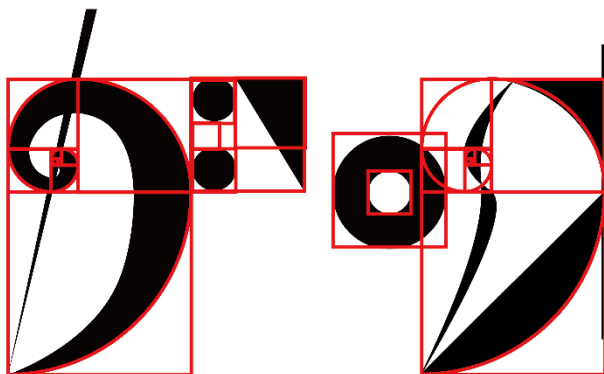


図2, ロゴの数理的特徴

1, 回転対称性

このロゴは180度回転させると一致する回転対称性を持つ。

図2の部分とそれを180度回転させた図形を右側に組み合わせることでこのロゴは作られている。

授業内で紹介された「アンビグラム」に興味を持ち、回転しても読むことができ

る面白さがコンセプトに適していると考えたため、「FOLKSONG」の文字列を意匠化して 180 度回転対称なロゴを作成した。

2, 数理曲線

このロゴの中の曲線には黄金螺旋と円、また、illustrator で自由な曲線を作図したため、ベジェ曲線を使用した。

図 2 に示したように、ロゴの最左、F(と逆向きの G)を意匠化した図形と、ロゴの中央、L の下棒と K を意匠化した図形に黄金螺旋が使われている。

O と F の横棒(及び N の左の縦棒)を意匠化した図形に円が使用されている。

L の縦棒(及び S)と F の黄金螺旋と一致していない輪郭の曲線にベジェ曲線が使用されている。なお、前者は交点や端点、変曲点が黄金螺旋上にあるように、後者は黄金長方形内部にできる正方形、その辺の midpoint を通るような曲線を描いた。

3, 黄金比

2 に示したように、このロゴには黄金螺旋が使用されていて、また、各図形の大きさや配置に黄金比を使用した。(図 2)

アピール点

数理的特徴とその心理的影響

私はまず、遊び心があるロゴとして、以前から興味があり、私が面白いと思っているアンビグラムを作成した。

黄金螺旋や黄金比を取り入れることで「洗練された」「整った」印象を与えられると考えたため、コンセプトであるスタイリッシュさを目指してこれを取り入れた。

また、1 年「造形デザイン入門」で学んだ点と線、面がもたらす効果について意識して、曲線と鋭角で構成することでコンセプトを表現できると考えてそのように作成した。

F と G、N などの意匠化

今回フォークソング部のロゴの作成であるため、何か音楽的な要素を取り入れたと考えた。

そうしたときに F、G はそれぞれヘ音とト音の音部記号の元となったアルファベットであることからそれぞれの音部記号に似たデザインを考えた。



図 3(左:ヘ音), 4(右:ト音) 音部記号

また、N は音符 (Note) をイメージして円と三角形を使用して描いた。

配色

今回、いくつかの候補があったが、「洗練、合理性、シャープさ、都会的」といった効果と楽譜のように見せるのを狙って無彩色のモノトーン配色を採用した。